

触れる漆 “漆”を若い世代に広める

a2200907 大森咲希

研究概要

約二年間学んできた漆を用いて子供向けのおもちゃ及び大人向けの遊び心のあるインテリア装飾品を制作し、それを見てもらうことで“漆”という存在を知ってもらう。

また自らの手で直接漆に触れることで漆という素材を身近に感じられるようにし、若い世代にも興味を持ってもらう。

背景・目的

日本古来より受け継がれている漆だが、現代の若い世代にはその存在自体があまり知られていない。消費者ニーズの変化により生活の中で漆を使用することが減り、触れる機会も少なくなっている。触れる機会があっても漆器店や美術館・博物館などが主である。漆器店などに見られる商品は古典的なデザインが中心で古めかしい印象のものが多い。また美術館・博物館での展示においても、強い興味を持たない限り足を運ぶことは少ない。こういった事一因として、現代の若い世代は漆に対する興味・関心を持つ機会が少ないと考えられる。

そこで、そんな若者の日常生活にも溶け込み、壁を感じず身近なものとして触れることのできるおもちゃ及びインテリア装飾品を製作する。それに直接触れることで漆という存在を身近なものとして認識してもらい、興味を持ってもらいたいと考えた。

児童及び20～30代までの若い世代をターゲットに、まずは漆の存在を知ってもらう。その上で若い世代が持つ漆への概念を改めるとともに、身近な存在と感じてもらおう。

制作工程

子供用パーツ

- 1、デザイン・サイズ決定
- 2、スタイロの切り出し
- 3、布着せ・目摺り
(2回繰り返す)

大人用パーツ

- 1、素材・デザイン・サイズ決定
- 2、木材の切り出し
- 3、固め

子供用パーツ・大人用パーツ共通

- 4、下地付け(一辺地)
- 5、下地付け(二辺地)
- 6、錆
- 7、下塗り
- 8、中塗り
- 9、加飾(螺鈿、卵殻、蒔絵、白檀塗りなど)
- 10、胴摺り・磨きなど

土台・アーム・箱

- 1、デザイン・サイズ決定
- 2 木材切り出し
- 3、固め
- 4、布着せ(箱)・塗り



スタイロ・木材の切り出し



布着せ・固め



下地付け・研ぎ



塗り



加飾



考察・感想

現代の若者に漆を知ってもらいたいという思いで始めた研究だったが、ターゲットに対して漆という存在をどのようにアピールしていくかが一番の悩みどころだった。研究の一環としておこなったアンケート調査では、漆に対する認識や意見などを知ることで衝撃を受けることもあった。しかしターゲット層の持つ漆のイメージと改めて向き合うことで自らの考え方を見直すことができ、制作を進める上で大変役立ったと感じている。

今回の制作で、漆は細かいところにも気を配り、一つ一つ丁寧に作業をすることが大変重要だということを感じた。完成品は塗りや装飾が目目されるが、それも下地付けや錆の工程がきちり出来ていないときれいな仕上がりにはならない。今回の制作も下地にはかなり気を遣った。特に子供用パーツは側面に厚みがあるため、滑らかな曲線を表現するのがとても難しかった。この作品をきっかけに、これまで漆に興味なかった人たちが少しでも漆を知り、興味を持ってくれればと思う。